

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年2月12日（金）
- 2 確認箇所
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 大熊分析・研究センター第1棟
（福島第一原子力発電所敷地西側）
- 3 確認項目
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 大熊分析・研究センター第1棟
の建設工事進捗状況

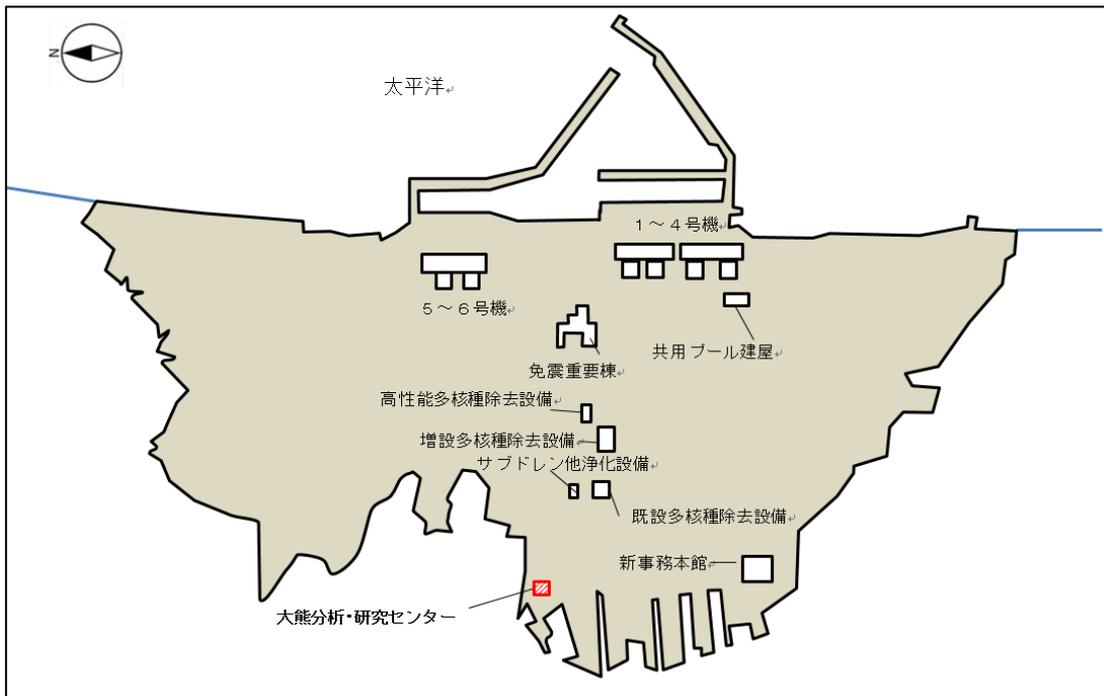
4 確認結果の概要

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下、「JAEA」という。）では、福島第一原子力発電所の廃止措置に向けて事故で発生した放射性廃棄物の性状等を把握するため、発電所敷地西側に放射性物質分析・研究施設の整備を進めている。

同施設は、施設管理棟、第1棟及び第2棟から構成され、居室、会議室等が含まれる施設管理棟は平成30年3月に運用が開始された。第1棟については、低・中線量のガレキ類、焼却灰等の分析を行う施設として平成29年4月に建設工事に着手され、現在も進められている。また、第2棟については、高線量の燃料デブリ等の分析を行う施設として令和2年5月に原子力規制委員会に実施計画変更認可申請がなされ、同委員会で審議が行われている。

今回、本年6月頃に運用開始予定の第1棟の建設工事の進捗状況を確認した。（図1）

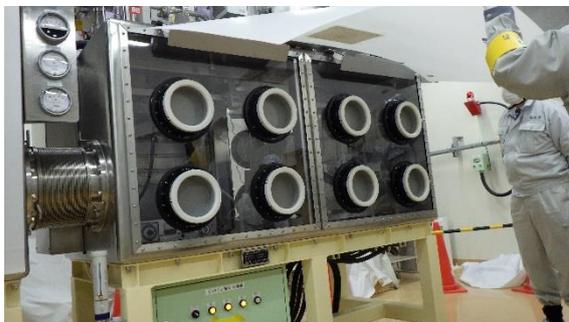
- ・第1棟は鉄筋コンクリート造り地上3階建てであり、主に1階で試料の搬出入、2階で前処理、3階で機器分析を行う計画となっている。また、現場確認時、建屋は完成しており、内装工事、設備設置工事が行われていた。
- ・2階の前処理室には、表面線量率1mSv/hから1Sv/hまでの中線量廃棄物等のサンプルを作製するため鉄セル4基が設置されていた。（写真1）
- ・サンプルを必要に応じ粉砕など行う施設として気密性のグローブボックス10基が設置されていた。（写真2）
- ・前処理の後段として溶解・分離、試料調整を行うためのフードが設置されていた。（写真3）
- ・JAEAによれば、本年6月の竣工に向けて、内装工事、設備設置工事及び設備の性能試験を着実に進めていくとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
鉄セルの設置状況



(写真2)
グローブボックスの設置状況
(グローブは未設置)



(写真3)
フードの設置状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。